

★ ネギにネギアザミウマが多発しています ★

ネギアザミウマの多発が続いています。かすり状の食害痕やネギアザミウマが媒介するネギえそ条斑病を防ぐため、防除を徹底しましょう。

発生状況

平成26年4月～8月に実施した巡回調査の結果、ネギアザミウマによるネギの被害株率及び被害度は、4月ではそれぞれ54.0%、15.0、5月では82.0%、48.0と平年比多かった(表1)。例年、被害がピークとなる6月では、それぞれ81.0%、37.5と平年並であったが、7月では72.0%、26.0、8月では54.0%、28.8と平年比多く推移した。

ネギアザミウマは、1年間に10回以上世代交代することが分かっている。8月まで多発生で推移していたことから、今後も多発生することが懸念される。

表1 ネギアザミウマの発生推移

	被害株率(%)		被害度	
	26年(平年比)	平年	26年(平年比)	平年
4月	54.0 (多)	7.7	15.0 (多)	1.7
5月	82.0 (やや多)	55.2	48.0 (多)	19.0
6月	81.0 (並)	74.3	37.5 (並)	35.4
7月	72.0 (多)	34.6	26.0 (多)	15.5
8月	54.0 (多)	8.0	28.8 (多)	2.8

被害指数 A:全葉数の51～100%、B:31～50%、C:11～30%、
D:1～10%、E:0%が被害

被害度=(4A+3B+2C+1D)/(A+B+C+D)×100

防除対策

○広範な植物に寄生することから、発生源となるほ場周辺の除草を行う。また、ネギアザミウマが寄生した残渣は適切に処理する。

○薬剤散布による防除を実施する。定植時には粒剤による初期防除、生育中は粒剤や散布剤による防除を行う。防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守すること。なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬コーナー (<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html>) の「農薬登録情報検索システム」を参照のこと。

○ネギアザミウマの薬剤感受性低下が懸念されている。薬剤散布後は効果を十分に確認し、感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布する。

○感受性の低下を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する（表2）。

○施設栽培では、開口部の防虫ネット設置やUVカットフィルムの被覆を行う。露地栽培では、赤色防虫ネットによる被覆が有効である。

○本年7月、Iris yellow spot virus(IYSV)によるネギえそ条斑病の発生が初確認された（発生予察特殊報第1号、平成26年7月2日）。本病はネギアザミウマが媒介するウイルス病であることから、本病の発生を予防するためにも、ネギアザミウマの防除を徹底する。

表2 「ネギ」でネギアザミウマまたはアザミウマ類に登録のある主な薬剤

系統名	薬剤名	希釈倍率・使用量 (kg/10a)	使用時期	使用回数
カーバメート系	ランネット45DF	1,000 ~ 2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
有機リン系	マラソン乳剤	2,000 ~ 3,000倍	収穫7日前まで	6回以内
	ダイアジノン乳剤40	700 ~ 1,200倍	収穫21日前まで	2回以内
	エルサン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	1回
	スミチオン乳剤	700 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
	サイアノックス乳剤	500 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
ピレスロイド系	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
	アディオオン乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ネオニコチノイド系	ダントツ粒剤	3 ~ 6kg	収穫3日前まで	4回以内
		6kg	植付時	1回
	アクタラ粒剤5	6kg	播種時または植付時	1回
	ベストガード粒剤	6kg	定植時	1回
	スタークル粒剤	6kg	播種時または定植時	1回
		6kg	生育期(収穫3日前まで)	2回以内
	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット)	定植前日から定植時	1回
		400倍灌注	生育期(収穫14日前まで)	1回
		2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	2,000 ~ 4,000倍	収穫3日前まで	4回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	1,000 ~ 2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
	アドマイヤーフロアブル	200倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット)	定植前日から定植時	1回
2,000 ~ 4,000倍		収穫14日前まで	2回以内	
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	2,500 ~ 5,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	2,500 ~ 5,000倍	収穫前日まで	2回以内
マクロライド系	アグリメック	500 ~ 1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	アニキ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
キナゾリン系	ウララDF	1,000 ~ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	コルト顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
その他	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。